

言語活動

今、学校現場において、気がついてみると教科指導が国語の時間かな？と思われるような授業になっていた、という事例があると聞く。

「我校の話し合いはこんなかたちです。」ではなく、さりげなく言語活動が位置づけられ、教科の指導がしっかりできている、そのことが大切なのだろう。

文部科学省 富山哲也 教科調査官が講義「平成 25 年度カリキュラム・マネジメント指導者養成研修」でまとめてくれました。

(以下講義の内容)

○学力の 3 要素

基礎力

思考力、判断力、表現力

自ら学ぶ力



これらの力を身につける手段に言語活動が位置づけられる。

○言語活動って何？

- ・言語を大切にし、言葉の力を育てること
- ・各教科の目標を実現するための手段（思考力、判断力、表現力を育てるため）

言い換えれば、

つけたい力について、生徒が言葉を用いて主体的に身につけることを意図して設定する学習活動

○例

社会科…多面的・多角的な物の見方ができるような話し合い

体育科…「がんばる」という目標から、「～するために…したい」へ

音楽科…批評文を書くときに、自分が感じたことを根拠をもとに書く

○まとめ

言語活動は、

- ・新しいやしたことないことをしているのではない。今までやっていたことにひと工夫する
- ・活動するだけではダメ 理由を添えて考えを書く（読む）



中学生が小学生に平泳ぎを教えていた。

「足で水を蹴るように」と教えたら小学生はサッカーのボールを蹴るような動作をした。中学生は「足の裏で水を押すように」と改めた